

石狩市若生C遺跡の出土陶磁器について

About excavated ceramics from the remains of Wakkaoi C
in Ishikari, Hokkaido

木戸 奈央子^{*1}・平河内 毅^{*2}

Naoko KIDO^{*1} and Tsuyoshi HIRAKOUCHI^{*2}

要 旨

石狩市若生C遺跡から出土した、幕末から明治期にかけての陶磁器について詳細を示し、陶磁器の年代や遺跡の年代・性格について考察した。出土遺物には、焼酎徳利やコンプラ瓶、三平皿などが見られ、多くは明治期のものと考えられる。本資料は、幕末から明治期にかけての石狩の街並み形成に伴った遺物と考えられる。

キーワード：陶磁器，幕末，明治，幕末蝦夷地3点セット，コンプラ瓶

はじめに

石狩市若生C遺跡（登録番号A・06・111）は昭和49（1974）年から51（1976）年にかけて発掘調査が行われ、続縄文時代末期の遺跡として報告がされている。今回報告する出土陶磁器類は、若生C遺跡の出土品であり、札幌国際大学旧吉崎研究室に保管されていたものである。遺跡のある石狩市八幡町若生は、幕末には付近に石狩役所があったとされており、幕末から明治にかけて石狩の中心的な場所であった。本稿では、この資料の詳細を紹介するとともに、石狩役所との関連性を検証し、考察を加えていきたい。

本研究における実測やトレース、写真撮影は平河内の札幌国際大学人文学部現代文化学科2012年度卒業研究として行った。

遺跡の概要と資料の履歴について

石狩市若生C遺跡は、石狩川の河口に近い右岸にある（図1）。付近には幕末に対岸から移された石狩役所があったとされている。発掘当時の遺



図1. 遺跡の位置。
国土地理院2万5千分の1地形図「石狩」
（石狩町教育委員会，1976に加筆）

跡名称は八幡町遺跡であり、発掘調査地点がそれぞれA・B・C・Dと定められていた。

今回の資料は陶磁器片を入れた袋に、年月日と「8manD」、また陶磁器片には「8D」という注記があり、その他にグリッド名と思われる注記もあった。当時の遺跡名称の八幡町遺跡と地点Dの

^{*1} いしかり砂丘の風資料館 〒061-3372 北海道石狩市弁天町30-4

^{*2} 札幌国際大学人文学部現代文化学科 〒004-8602 札幌市清田区清田4-1-4-1

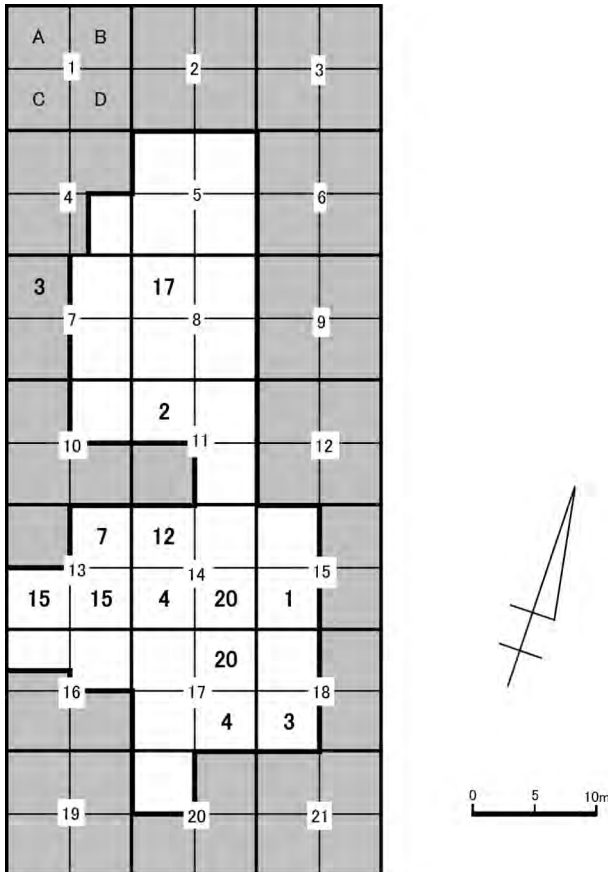


図2. 若生C遺跡 グリッド図および出土遺物数（陶磁器・ガラス製品は出土破片数）。

略称からこのような注記になったと考えられる。報告書の地点Dのグリッド図と照合をした結果、発掘した部分のグリッド名と一致するものであったことから地点D出土資料と定めた（図2）。グリッド図にはない「S」という注記については、当時発掘調査に当たっていた石橋孝夫氏によると、表面採集資料ではないかのご教示を頂いた。

本資料が札幌国際大学に保管されていた経緯は次の通りである。当時、出土した遺物は、吉崎昌一氏が助教授として在籍していた北海道大学人類学研究室で保管され、整理・研究が行われた。報告の対象となった遺物はその後、石狩町教育委員会（当時）に返却されたが、それ以外の資料はそのまま同研究室に保管されていた。おそらく、当時は近世や近代の遺物は、遺物として対象か否かの判断が難しかったのであろうと推測される。その後、吉崎氏の札幌国際大学への異動に伴い、本

資料も送られたとのことである。同大学には吉崎氏の収集した膨大な考古資料が吉崎コレクションとして収蔵されており、本資料もそのひとつである。

資料の所在や性格については、平成24（2012）年に吉崎氏の後任である同大学の越田賢一郎教授から、いしかり砂丘の風資料館に問い合わせがあり、明らかとなった。本資料は、石狩市内を代表する遺跡のひとつである若生C遺跡から収集された遺物であり、また市内では報告例が少ないコンプラ瓶を含む、幕末から明治にかけての陶磁器を中心とするものである。そのため、概要についていしかり砂丘の風資料館研究紀要で公表することとなった。

研究方法

注記のある資料については、グリッドごとに器種分類を行い、個体数把握を行った。複数点のグリッドから出土しているもので接合するものについては、1点のグリッドに統一した。また、本資料には注記のない資料が大半を占めており、それについてはグリッド外資料として、それぞれ器種分類や個体数把握を行った。注記のないもので、グリッド内の資料と接合するものはグリッド内資料として扱った。個体数把握に関しては、口縁部や底部だけの破片はそれぞれ一個体とし、胴部だけの破片についてはそれだけで一個体とし、残存率が低い破片は対象外とした。また、器種分類において陶器や磁器などの材質分類の際に、炆器資料は分類上陶器に含めることとした。

分類と接合作業の後、実測図を作成し、併せて遺物の観察も行った（表1）。染付による文様などがある陶磁器については、写真撮影時に水平の状態撮影し、それをデジタル加工し、実測図と合成した。トレースはロットリングペンによる手書きである。No.22については、同一個体だが接合しない2点の破片があり、実測図上で復元した。

なお、実測図はレイアウトの都合上、1/3、1/4

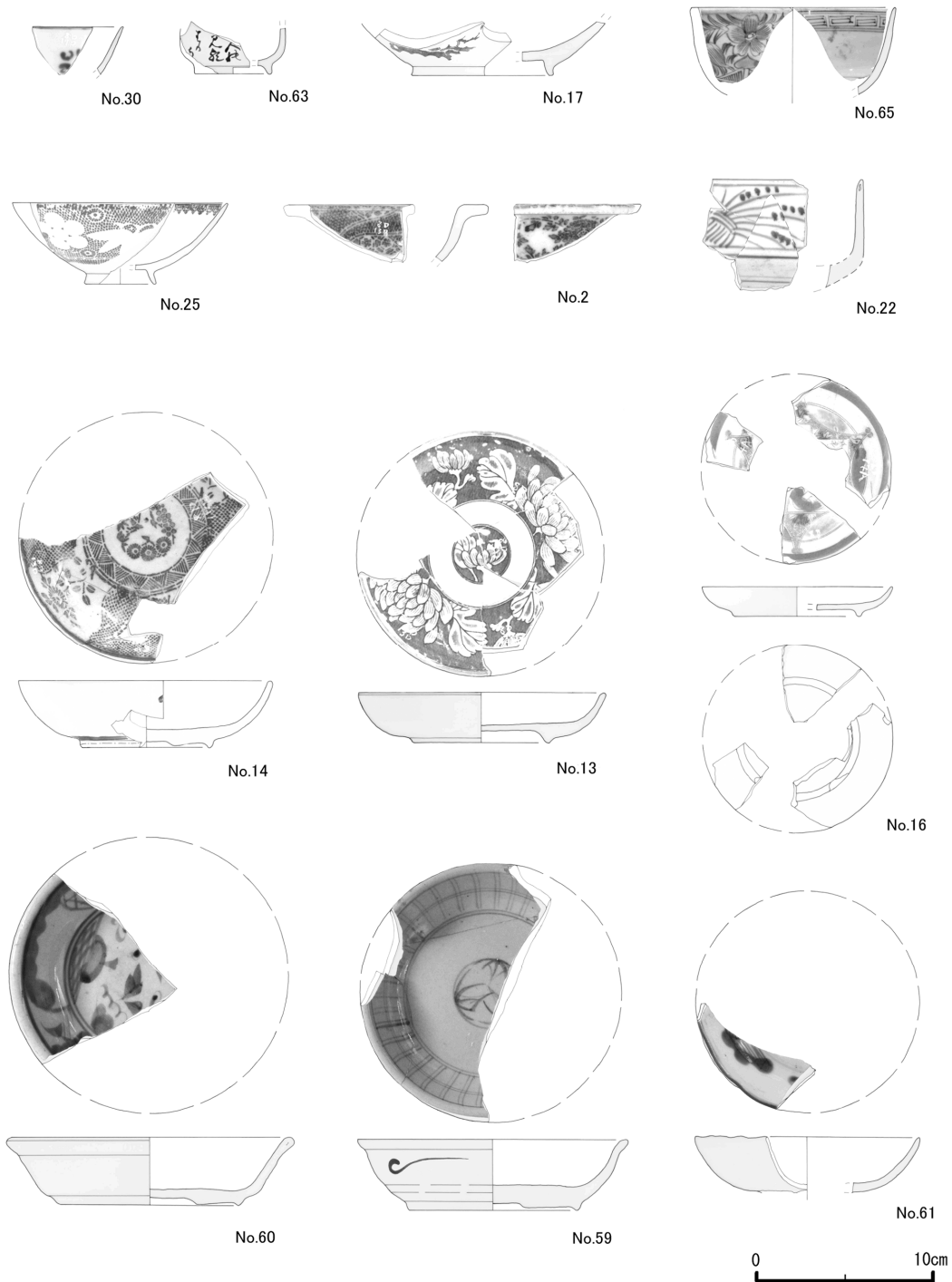


図3. 出土遺物実測図① (No.は表1に対応) .

に設定した縮尺から若干小さくなっているため、スケールを参照願いたい。

出土資料について

本研究において分析の対象とした資料は、磁器43点、陶器37点、ガラス製品5点、金属製品4点、

石製品2点、古銭や土錘などのその他が3点の計94点である。個体数はグリッド内が32点、グリッド外は不確定なものを含め、少なくとも64点以上である。器種から見ると徳利類が44点と一番多く、その中でも最も個体数が多かったのは焼酎徳利である。

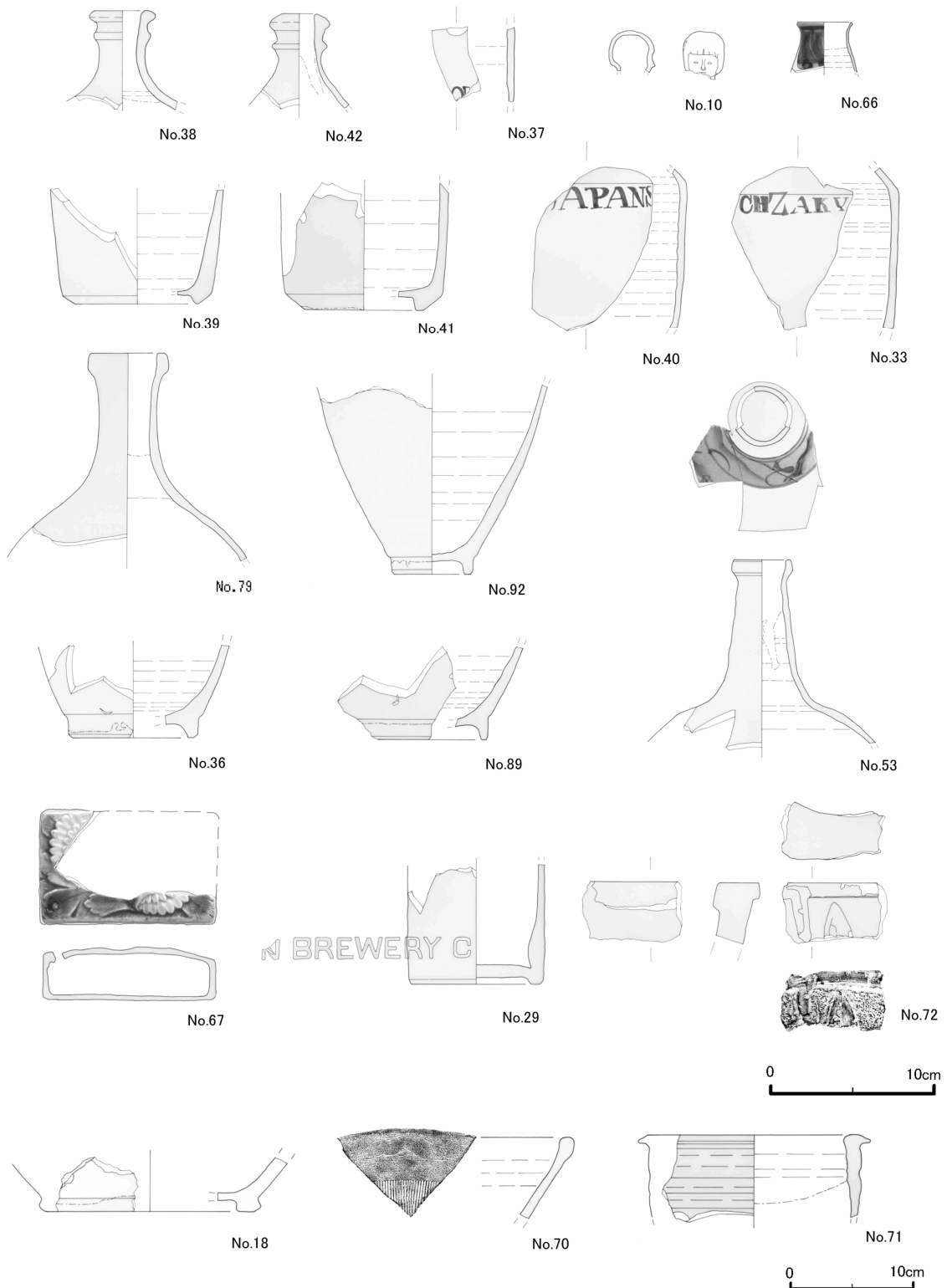


図4. 出土遺物実測図② (No.は表1 に対応) .

(1) 徳利類

徳利類で見られた器種は、焼酎徳利・笹絵徳利・コンプラ瓶・爛徳利の4種である。

焼酎徳利とは、主として明治期に新潟で生産さ

れた焼酎の輸送用容器として新潟県内の窯で焼かれ、北海道向けに海上輸送されてきたものである(松下・氏家・笹木, 1978)。特徴としては、ロクロで一気に引き上げるため、首が太く短いもの



図5. 出土遺物写真① (A: 碗類, B: 蓋物, C: 皿, D: コンプラ瓶) .

が多く、肩から胴部にかけて膨らみ、底部に向かってすぼまる形である。釉薬は主に灰釉で、色味は灰緑色や飴色、または青・白・黒などの混色である。焼酎徳利は一種の消耗品として使われていたことがほとんどで、使い終われば捨てられ、中には栓を抜くことが面倒で首部分を割って飲んで捨てたとも言われている。よって生産量も多

かったことから、出土数が多いこともうなずける。

今回の資料では完形品はなかったものの、窯印「V」のある徳利が2点あった(図4 No.36, 89)。この窯印は新潟県西蒲原郡巻町(現新潟市)にあった松郷屋の窯印と共に報告がされているが、窯元の特定までには至っていない(松下ほ



図6. 出土遺物写真② (E：徳利類, F：甕・播鉢・その他, G：金属)。

か, 1978)。北海道への焼酎徳利の移入時期は、遅くとも明治の初め頃とされており、明治10年代～20年代に全盛期を迎え、その後道内における焼酎生産の増加によって次第に減少することから(松下ほか, 1978)、本資料も明治の前期～中期頃のものと考えられる。

次に出土資料として目を引くものは、コンプラ

瓶である。コンプラ瓶は江戸時代後期から明治にかけて長崎の波佐見で生産され、主に醤油や酒類の長崎への売り込み用と、輸出用に使用された磁器である(長沼, 1997)。筒状の胴部に短い頸部が付き、胴部には「JAPANSCHZOYA (日本の醤油)」「JAPANSCHZAKY (日本の酒)」といったオランダ語が染付されている。国内では長崎の

出島を除いて、北海道の主に海岸部の遺跡から出土しているという特徴的な資料である。本資料では、頸部破片が2点、底部破片が2点、胴部破片が3点の計7点が出土している。胴部破片については呉須による手描きの染付があり、それぞれ、「CHZAKY」、「OR」と見られるもの、「JAPANS」の文字が確認出来た(図4 No.33, 37, 40)。

No.37の「OR」に関しては、文字の並びから「ISTE. SOORT. JAPANSCHZOYA(第一級の日本の醤油)」もしくは「ISTE. SOORT. JAPANSCHZAKY(第一級の日本の酒)」の一部分である。コンプラ瓶は明治期になると、コバルトによる型紙摺りが一般化されることから、文字のある3点の資料に関しては幕末に生産されたものであろう。

(2) 三平皿

三平皿は三平汁を盛るのに用いられたやや深めの皿のことを指す。本資料では計3点と少ないが出土している(図3 No.14, 59, 60)。三平皿の器形の定義は明確ではないが、口径15cm前後、器高4cm前後、深さ3cm前後の蓮花状の口縁を持つものとされている(松下, 1969)。本資料では蓮花状の口縁を持たない中皿も、用途の面から考え、前述の大きさを有するものは三平皿とした。No.14は瀬戸・美濃系型紙摺りの三平皿で、わずかながら蓮花状の口縁が残っている。見込み中央には松竹梅文様があり、そこから口縁部にかけて八等分に区分けし、交互に文様を配置している。文様は菊のような花と日の丸の旗ではないかと思われる。No.59は肥厚した器形で見込みに格子文様と笹文様があしらわれている。このような中皿は道内の幕末の遺跡からも出土している。

(3) その他の器種

甕と播鉢は本資料からは計3点と、日用的に使用する器種としては非常に少ない出土である(図4 No.18, 70, 71)。甕は福岡で生産された上野・高取系の中甕(No.71)と瀬戸・美濃系の水甕が

出土している(No.18)。上野・高取系の中甕は特徴として口縁部がT字状に肥厚し、短く直立した頸部がつく。底は平底で底部付近を除いて褐釉がかけられ、口唇端面は拭き取られて無釉である(関根・佐藤, 2009)。

播鉢もまた、上野・高取系と考えられる(No.70)。基本的な特徴としては、やや内湾もしくは直線的にのびる胴部を持ち、口縁はやや厚めの玉縁状で、外面口縁部下にはっきりとした凹凸をつける場合がある。掘り目は密に施し、内面口縁下でのナデ調整はあまりない。

図3のNo.16は本資料の中で唯一の色絵磁器である。六等分に区分けされた文様の中にひらがなが見られる。朱色、緑色、黄色で所々塗りが見られるが全体的に雑な印象を受ける。産地は瀬戸・美濃系と思われる。

図6のGにある古銭はどちらも鉄銭で、ひとつは半分以上が欠損している。寛永通宝だと思われるが、錆が激しいため、詳細は不明である。もう一方も、錆が激しく、文字なども読み取れないが、X線撮影によって寛永通宝の「永」の文字を読み取ることが出来た。背文字など読み取れない部分がほとんどであるため、鑄造場所は不明である。

考 察

(1) 出土品の性格と年代

出土遺物から分かる特徴として、器種の偏りがあげられる。碗や皿の食膳具、甕や播鉢などの調理具や貯蔵具に比べて圧倒的に徳利類が多い。これは焼酎徳利が一種の消耗品として使用されていたことからこのような比率になったのではないだろうか。また、出土遺物には白磁の人形やおはじきといった玩具も見られることから、子どもの存在もうかがえる。出土数が少ないため、はっきりとした見解は出せないが、おそらく小規模な住宅街だったのではないかと考える。

本資料からは型紙摺りや銅版転写といった明治に入ってから装飾技法が多く見られる。また、

染付も呉須よりコバルトを用いたものが多い点も明治期の特徴である。コバルトが使用されるようになるのは明治の初めから、型紙摺りは明治10年代からとされている。また、銅版転写に関しては明治20年代から本格的に製造が始まるとされている（江戸遺跡研究会，2001；有田町史編纂委員会，1985）。焼酎徳利の北海道への移入時期も含めて考えると、遺跡の主要年代は明治10年代以降ということになる。

（2）幕末蝦夷地3点セットについて

19世紀中葉以降の北海道の遺跡で出土する陶磁器には器種の偏りが際立っており、肥前系磁器を主体とした^{なます}臚皿（三平皿）、高取焼甕、徳利（肥前産笹絵徳利・コンプラ瓶・越後産焼酎徳利）の三器種が多く出土する。この組み合わせを幕末蝦夷地3点セットと呼んでいる（関根・佐藤，2009）。本資料では3点セットの全てが出土しているが、焼酎徳利や笹絵徳利以外は出土数が極めて少ない。しかし、この3点セットは道内の幕末から明治にかけてのほとんどの遺跡で確認されていることから、同時期の陶磁器を見ていく上で注目すべき要素であると考えられる。

まとめ

本資料の陶磁器の年代を考えると、幕末から明治期全般であり、遺跡の主要な年代としては明治期であると考えられる。よって幕末の安政5（1858）年から慶応4（1868）年まで存続した石狩役所との関係性は極めて低い。おそらく、明治期に入って入植した人々が使用したものであろう。ただ、石狩役所時代の後も、建物自体は兵部省や開拓使石狩出張所として使用されたことを考えると、行政機関を中心とした街並み形成に少なからず関わってきたものと思われる。

石狩市の同時期の遺跡として、厚田区にある聚富川口遺跡があげられる。主な出土遺物として、焼酎徳利や笹絵徳利、コンプラ瓶、三平皿などが出土しており、出土数もはるかに多い。また、皿などでは年代が18世紀中葉頃までさかのぼるものも見られた。今後、詳細な調査・研究を行うことによって、石狩の当時の街の様相やモノの流通などを解明していきたい。

謝辞：本稿をまとめるにあたって、資料見学等で以下の機関にお世話になりました。深く御礼申し上げます。

苫小牧市博物館、北海道開拓記念館、北斗市教育委員会、松前町教育委員会、余市町教育委員会、北海道埋蔵文化財センター、札幌国際大学

また、陶磁器の年代や産地特定などについては、松前町教育委員会の佐藤雄生氏にご教示をいただきました。研究方法等については、札幌国際大学の越田賢一郎教授にご指導していただきました。深謝いたします。その他、日頃よりご協力をいただいておりますいしかり砂丘の風資料館の職員の皆様に感謝いたします。

引用文献

- 有田町史編纂委員会，1985. 有田町史 陶業編Ⅰ・Ⅱ. 有田町.
江戸遺跡研究会，2001. 図説江戸考古学研究事典. 柏書房.
石狩町教育委員会，1976. 石狩・八幡町遺跡ワッカオイ地点D地区発掘調査報告書. 石狩町教育委員会.
松下亘，1969. 三平汁・三平皿考. 北海道の文化16. 北海道文化財保護協会.
松下亘・氏家等・笹木義友，1978. 焼酎徳利について—明治期における新潟と北海道との関連資料—. 北海道開拓記念館研究年報，6：47-63.
長沼孝，1997. コンプラ瓶. 考古学による日本歴史10 対外交渉. 雄山閣出版.
関根達人・佐藤雄生，2009. 出土近世陶磁器からみた蝦夷地の内国化. 日本考古学，28：69-87.

表1. 若生C遺跡出土陶磁器観察表(その1).

No.	グリッド	器種	口径	底径	器高	成形・装飾技法	備考
1	8-A	片口					玉縁状の口縁破片1点, 底部破片1点を含む計16点の破片
2	8-A	中鉢				型紙摺り, 内面桜, 外面花文様	13-B出土破片と同一個体, 口縁部, 磁器, 明治以降
3	13-B	甕				素焼き	一部焼けた跡, 口縁部, 陶器
4	13-B	甕?				内面施釉, 外面無釉	底部, 陶器
5	13-B	おはじき	長1.4	幅1.7	厚0.5	ガラス, 薄緑色	
6	13-C	おはじき	長1.5	幅1.6	厚0.45	ガラス, ほぼ透明	
7	13-C	おはじき	長1.5	幅1.6	厚0.35	ガラス, 飴色	
8	13-C	人形				型作り, 白磁	胴部, 磁器
9	13-C	和鉢	長14.7	幅1.3	厚0.5	持ち手部分に木綿を巻いた跡か, 半分欠損	
10	13-D	人形	長2.75	幅2.5	2.9	型作り, 白磁	頭部, 磁器
11	13-D	蓋	4.6	3.2		見込みに「弓朱」の文字	湯呑の蓋か, 磁器
12	13-D	急須?				内面無釉	蓋を受ける部分あり, 口縁部, 陶器
13	13-D	中皿	13.6	7.4	2.8	コバルト, 見込み菊花, 口紅, 銅版転写	磁器, 明治以降
14	13-D	三平皿	14.0	7.0	3.7	型紙摺り, 見込み松竹梅, 菊に日の丸?, 蛇ノ目凹型高台, 蓮花状口縁か	磁器, 明治以降, 瀬戸・美濃系
15	13-D	土鍾	長4.95	外径3.9	内径1.2		
16	14-A	色絵小皿	10.5	6.9	1.6	畳付無釉, 見込み六つに分けた文様にひらがな, 所々筆による塗り(朱色, 黄色, 緑色)	磁器, 瀬戸・美濃系か
17	14-A	碗		4.6		コバルト, 銅版転写	底部, 磁器, 明治以降
18	14-A	水甕		16.8		高台一部と畳付無釉	底部, 陶器, 瀬戸・美濃系
19	14-C	小瓶	1.0	1.6	4.0	ガラス, 薄緑色	
20	14-C	錠前	長8.6	幅6.7	厚2.0	錆による腐敗が激しい	
21	14-D	小皿	11.0	6.3	1.7	コバルト, 見込み魚, 型紙摺り	磁器, 明治以降
22	14-D	段重?				内面の口縁部無釉, 稲の文様か	17-B出土破片と同一個体, 口縁部, 磁器
23	14-D	硯	長11.1	幅6.0	厚1.7	黄褐色の石材, 両側面に「の」「ち」などの文字, 陸部分に凹みあり, 海部分欠損	
24	14-D	舟釘	長12.3	幅1.8	厚6.8	錆による腐敗が激しい	
25	17-B	碗	12.0	4.0	4.5	型紙摺り, 内面口縁部輪宝, 外面梅に笹	口縁部, 磁器, 明治以降
26	17-B	土鍋蓋				内面無釉, 外面に呉須	
27	17-B	硯	長6.5	幅5.5	厚1.45	黒色の石材, 一部格子状の刻みあり, 側面に傷が多い	
28	17-B	煙管	0.7	0.9	長7.3		羅字の部分が残っている, 吸い口部分
29	17-B	ビール瓶		7.6		胴部下に「N BREWERY C」の浮き出し文字, 底部に星マーク	大日本麦酒か
30	17-D	杯				口紅, 外面に源氏香の文字	口縁部, 磁器, 瀬戸・美濃系
31	18-C	焼酎徳利				全面施釉	頸部, 陶器
32	18-C	焼酎徳利				内面一部無釉	口縁部, 陶器
33	S (表採)	コンブラ瓶				手描きによる染付で「CHZAKY」	肩から胴部, 磁器, 幕末, 波佐見産
34	S (表採)	焼酎徳利		7.0		全面施釉	底部, 陶器
35	S (表採)	焼酎徳利				高台部分無釉	底部, 陶器
36	S (表採)	焼酎徳利		7.2		高台一部と畳付無釉, 外面胴部に窯印「V」	胴部から底部, 陶器, 越後産
37	グリッド外	コンブラ瓶				手描きによる染付で「OR」か	「IST.SOORT.…」か, 胴部, 磁器, 幕末, 波佐見産
38	グリッド外	コンブラ瓶	3.4			内面一部施釉	口縁から頸部, 磁器, 波佐見産
39	グリッド外	コンブラ瓶		7.4		内面と畳付無釉	底部, 磁器, 波佐見産
40	グリッド外	コンブラ瓶				手描きによる染付で「JAPANS」	胴部, 磁器, 幕末, 波佐見産
41	グリッド外	コンブラ瓶		7.1		内面無釉	底部, 磁器, 波佐見産
42	グリッド外	コンブラ瓶	3.0			内面一部施釉	口縁から頸部, 磁器, 波佐見産
43	グリッド外	笹絵徳利	3.5			全面施釉	口縁部, 磁器
44	グリッド外	笹絵徳利	4.5			内面無釉	口縁部, 磁器
45	グリッド外	笹絵徳利	3.9			内面一部無釉	口縁部, 磁器
46	グリッド外	笹絵徳利	3.5			内面は口縁部を除き無釉	口縁部から頸部, 磁器
47	グリッド外	笹絵徳利?				内面一部無釉	頸部, 磁器
48	グリッド外	笹絵徳利		11.0		内面無釉	底部, 磁器
49	グリッド外	笹絵徳利		8.5		内面と畳付無釉	底部, 磁器
50	グリッド外	笹絵徳利		9.0		内面と畳付無釉, 高台内施釉	底部, 磁器
51	グリッド外	笹絵徳利		6.0		全面施釉	胴部から底部, 磁器
52	グリッド外	笹絵徳利		8.1		内面と畳付無釉	底部, 磁器

表1. 若生C遺跡出土陶磁器観察表（その2）.

No.	グリッド	器種	口径	底径	器高	成形・装飾技法	備 考
53	グリッド外	笹絵德利	3.5			内面は口縁部と頸部一部を除き無釉	口縁部から頸部, 磁器
54	グリッド外	蓋	9.2	3.8	2.1	内面口縁部分に四方禪文, 見込み「成化年制」, 外面梅か, 高台内銘不明	磁器
55	グリッド外	蓋	10.8	4.2	3.1	コバルト, 型紙摺り, 見込み松竹梅, 高台内銘六文字「高□山 千□製」	磁器, 明治以降
56	グリッド外	蓋	9.9	3.5	2.9	内面口縁部雷文, 見込み松竹梅か, 外面に鳥	磁器
57	グリッド外	蓋	6.7	3.8	3.2	内面外面共に型紙摺り, コバルトか, 外面に鳥	磁器, 明治以降
58	グリッド外	行平鍋蓋		4.1		外面無釉, とびがんなの装飾に筒描きの文様	陶器
59	グリッド外	三平皿	14.8	9.3	4.0	格子に見込み笹か, 蛇ノ目凹型高台	磁器
60	グリッド外	三平皿	15.4	9.9	3.7	外面青磁, 蛇ノ目凹型高台, 見込み宝に牡丹花文か	磁器
61	グリッド外	小皿	12.4			波状口縁, 口紅, 見込み松文か	口縁部, 磁器
62	グリッド外	皿		6.6		蛇ノ目凹型高台, 見込み蛇ノ目釉剥ぎ, 高台一部と畳付無釉	底部, 磁器
63	グリッド外	湯呑碗		2.1		外面に手描きによる染付の文字	胴部から底部, 磁器
64	グリッド外	不明				コバルト, 外面に花	口縁部, 磁器, 明治以降
65	グリッド外	碗	11.6			内面雷文, 外面に桜	一部被熱, 口縁部, 磁器
66	グリッド外	爛德利	3.2			内面一部施釉	口縁部, 磁器
67	グリッド外	水滴	長6.6	幅10.3	2.8	板作り成形?, 菊花文様, 側面に刻み	磁器
68	グリッド外	土瓶				松や家などの文様, 内部は無釉	少なくとも3~4個体, 10破片
69	グリッド外	急須					口縁・底部を含む6破片
70	グリッド外	搦鉢	31.2			全面施釉	上野・高取系, 口縁部, 陶器
71	グリッド外	甕	16.8			口唇端面の釉は拭き取られている	上野・高取系, 口縁部, 陶器
72	グリッド外	火鉢or焔炉				口縁外面は六か八角形, 内面は円形か	口縁部, 陶器
73	グリッド外	焼酎德利	4.0			全面施釉, 土灰釉	口縁部, 陶器
74	グリッド外	焼酎德利	4.2			全面施釉, 外面:土灰釉, 内面:海鼠釉	口縁部, 陶器
75	グリッド外	焼酎德利	4.0			全面施釉, 海鼠釉	口縁部から頸部, 陶器
76	グリッド外	焼酎德利	4.0			内面:鉄釉, 外面:土灰釉	口縁部から頸部, 陶器
77	グリッド外	焼酎德利	4.2			頸部内面一部無釉, 灰釉	口縁部から頸部, 陶器
78	グリッド外	焼酎德利	4.2			全面施釉, 外面:灰釉, 内面:鉄釉	口縁部から頸部, 陶器
79	グリッド外	焼酎德利	4.4			頸部内面一部を除き全面施釉, 灰釉	口縁部から頸部, 陶器
80	グリッド外	焼酎德利				外面:藁灰釉, 内面:鉄釉	底部, 陶器
81	グリッド外	焼酎德利		7.6		畳付無釉, 外面:藁灰釉, 内面:鉄釉	底部, 陶器
82	グリッド外	焼酎德利				高台一部と畳付無釉, 外面:藁灰釉, 内面:鉄釉	底部, 陶器
83	グリッド外	焼酎德利		7.0		高台一部と畳付無釉, 見込みに一部外面の釉, 兜巾の様な突起, 外面:海鼠釉, 内面:鉄釉	底部, 陶器
84	グリッド外	焼酎德利		7.2		高台一部と畳付無釉, 外面:藁灰釉, 内面:鉄釉	底部, 陶器
85	グリッド外	焼酎德利		7.6		高台一部と畳付無釉, 外面:藁灰釉, 内面:鉄釉	底部, 陶器
86	グリッド外	焼酎德利		8.0		高台一部と畳付無釉, 内面は自然釉か, 内面に一部外面の釉あり, 外面:藁灰釉	底部, 陶器
87	グリッド外	焼酎德利				全面施釉, 外面:藁灰釉, 内面:鉄釉	底部, 陶器
88	グリッド外	焼酎德利		7.6		高台と畳付無釉, 高台内施釉, 外面:灰釉, 内面:鉄釉	底部, 陶器
89	グリッド外	焼酎德利				高台一部と畳付無釉, 外面に窯印「V」	底部, 陶器, 越後産
90	グリッド外	焼酎德利		6.8		高台一部と畳付無釉, 畳付部分に目積みのような跡, 外面:灰釉, 内面:鉄釉	底部, 陶器
91	グリッド外	焼酎德利		7.2		高台一部と畳付無釉, 胴部下に焼成時についたと見られる破片あり, 鉄釉	胴部から底部, 陶器
92	グリッド外	焼酎德利		4.6		高台一部と畳付無釉, 畳付部分に胎土目積みのような跡, 鉄釉	胴部から底部, 陶器
93	グリッド外	古銭				鉄銭, 半分以上欠損, 寛永通宝か	
94	グリッド外	古銭	長2.5	幅2.5		鉄銭, 寛永通宝	

※長=全長, 厚=厚さ (いずれも最大値)